

全ふれセミナー2018 in すぎなみ アンケート(集計表)

回収 33 通

セミナー参加者

1日目

108 名 84家族

2日目

44 名 37家族

★質問1 該当する所属を選択してください。

ア. 保護者(父・母・その他)	8					
イ. 教育関係者(幼稚園 小学校 中学校 高校 大学 特別支援学校)	3					
ウ. 福祉関係者	2					
エ. 行政関係者	6					
オ. 企業関係者	1					
カ. 一般市民	10					
キ. 学生(大学生)	2					
ク. 学生(高校生以下)	2					
ケ. その他	0					

★質問2 参加の地域区分を選択してください。

ア. 東京都内	22				
イ. 全国	11	新潟	3		
		長野	2		
		愛知	1		
		神奈川	5		

★質問3 本セミナーは全体として満足のいく内容でしたか?

ア. 満足	21
イ. やや満足	7
ウ. やや不満	
エ. 不満	
未記入	5

【1日目のプログラム】

★質問4 杉並ふれジョブの会の活動紹介「ふれジョブってなあに～その醍醐味」のご感想をお聞かせください。

- どこでも起こる「ふれジョブ」からの喜びと感動を再確認しました。(保護者→保)
- 事業所が受け入れを決めるまでに、様々な努力をされていることがわかりました。(一般市民→市)
- 5名のお話を伺い、「ふれジョブはほんとうに暖かいなあ」と心があつくなりました。松永さんのお話の中で「ふれジョブは青春の一幕だったように思います」という言葉があり、心に残りました。悔しいことも楽しいこともたくさんあったのだと思います。子供のふれジョブを続けたいからストをしたというのも、悔しい思い出の一つかもしれません。それらを青春という言葉で表現されていたことが、とてもステキだなと思いました。(市)
- 「チャレンジド」の皆様が本当に楽しんで活動されていることがわかりました。地域の方々も、最初は子供たちとどう接してよいかわからなかったとのことでしたが、活動を通じていろいろ理解を深められたことが伝わりました。(学生→学)
- それぞれの立場の人のことばが聞けて良かったです。皆がGIVEしてみんながたくさん得ていることが素敵だと思いました(学)。
- 教師(学校)のかかわりがすばらしい(福祉関係者→福)
- 活動内容や参加される方のお話がよくわかりました。(福)
- それぞれの人がそれぞれ得ているものを感じた。みなさんが「一人一人」人となりをつかんで活動していると「つながり」を聴くだけで感じました(市)。
- 友人の誘いで参加しました。ふれジョブについて全く知識がなく、初めて聞いた言葉でした。活動内容についても全く知りませんでした。本日のセミナーに参加させていただき、大変勉強になり、興味を持つことができました。今の私に何ができるのかわかりませんが、これから考えていきたいと思います(市)。
- 地域の温かい気持ちがあるからこそこの活動ではあるが、地域を温かくする活動でもあると感じた(行政関係者→行)
- 本日はありがとうございました。初めての参加です。騒がしい息子を連れて行ってしまい恐縮しております。「ジョブ」が付くとすぐに仕事と結びつけてしまい足が遠のいてしまいますが、西先生から「ゆるく考えてください」とのお言葉をいただき、肩の荷が少し抜けました。小学校卒業以来お会いしていなかった松永さんにもお会いでき、良かったです(保)
- ふれジョブにかかわるそれぞれの立場の皆さんから生の声が聞けたのでとてもよくわかりました(行)
- 杉並ふれジョブは生まれてそんなに経っていないと思いますが、すでに「文化」ができつつあり、うらやましいです。やはり4者がうまくかみ合っていくこと大事ですね(行)。
- よかったです。それぞれの立場でのお話、分かりやすかったです。(教育関係者→教)
- 「ふれジョブの魔法」、私も体験したいと思いました。(市)
- 予備知識のないまま参加させていただきましたが、様々な立場から生のお声を聴かせていただき、ふれジョブの活動や係わる方の思いを理解することができました。(保)
- とても分かりやすく紹介していただきました(行)。
- それぞれの皆様のことばから、人と人がつながることのすばらしさを感じました。そんな地域にしていきたいです(行)。
- ふれジョブがどういうものなのか、触りだけかと思いますが、理解できました。チャレンジド自身の発表は、途中詰まる部分もありましたが、それを見守る、暖かい空気に感動しました。こんな空気が杉並中に～日本中に広がっていくといいなあ・・・誰もが生きやすい世界になるだろうなあ・・・と感じました。自分のやりたいことも明確になったように感じました。ありがとうございました。(教)
- ふれジョブについて、何度か聞いていたのですが、今日、保護者の方など関係者の方々の生の声を聴いて、納得ができました。共生社会の実現に深くかかわるのだと感じました。(教)
- 全国の事例や、杉並での事例が聞けて、イメージが具体化してよかった。(保)
- 杉並の皆さんの意識の高さが感じられました。とても素敵なお話を伺うことができて良かったです。(保)
- いなげやさんの石川さんのお話に感銘を受けました。地域住民として、一員として、関わってもらおうという意見がすーっと入ってきた。(企業関係者→企)
- パネラーの皆さんが熱心に丁寧に話していただき、とてもいい関係性で、杉並の活動が行われている様子がうかがえました。(市)
- 大変なこともたくさんある中でも、がんばっていてすごいと思った。(高校生)
- 保護者、チャレンジド、サポーター、受入先のそれぞれが「体験したこと」や「感じた想い」等、話して下さって、全国のふれジョブの方々も思い思いの感想があったのではないのでしょうか?(保)

★質問5 杉並区手をつなぐ育成会 キャラバン隊の紹介と公演のご感想をお聞かせください。

- わかりやすい内容でよかったです。(保)
- 伝える、伝わらないことを実感できる素晴らしい内容でした。(市)
- わからないことがとても怖いことだというのを肌で感じました。ミニオンたちの言っていることが分かり、コミュニケーションが成立したときの校長先生の安心した表情が印象的でした。(市)
- 知的障害を持つ方がどのようなところで困難があるのか、少し理解に近づきました。(学)
- どうしたら相手(障害のある人)の気持ちがよく分かるのかが身をもってわかった。友達にも教えたい。(学)
- 面白かった。感心しました。ありがとうございました。(福)
- 自分も指導する上で大変参考になりました(福)
- 体験から実感。楽しい演出。(市)
- 「わからない」ということを分かってあげるとのこと。曖昧な表現を伝える難しさがよく分かった(行)
- 抽象的な表現は確かに伝わりにくいです。数値化したり、身振りで伝えたり、時間はかかりますが教えていったほうが生活しやすいです。奮闘中です。(保)
- 寸劇とワークショップで、体験的に理解ができたので、大変勉強になりました。伝えることの難しさを知りました。(行)
- 面白かったです。地域の小学校などでやると良いのにと思いました。考えるのによい教材だと思いました。(保)
- 今日のような劇(?)をいろいろな場でされているのでしょうか?障害理解のために、子どもでもわかりやすくしているなと思いました。(保)
- 言葉が通じることの大事さ、抽象的な言葉をどう伝えるかということ、とても分かりやすく教えていただきました。このネタ、どこかで使わせていただきます。(行)
- デビューおめでとうございます。私も特別支援学校のコーディネーターとして、キャラバン隊の内容と同じようなことをしています。ぜひ連絡させていただければ~と思います。(教)
- 寸劇、可愛らしかったです。私は保護者なので、当人や周りのお子さんに伝わりやすいよう接しているつもりですが、実際には何がどう分かるのか、分からないのかを体験することはできません。日々接していると忘れがちなのですが、こうした活動を通して思い起こさせていただくのはありがたいです。(保)
- 障害の特性を理解するのにわかりやすかったです。初めて結成したとは思えません。(行)
- シスターズ、堂々としていてよかったです。ぜひ活動を広げてくださいね。期待しています。(行)
- どうしたら皆さんに理解されるのか、保護者自身が真剣に考えて作られたのだと思います。ありがとうございました。(教)
- 伝わらない体験、どうしていいか、とても興味深い体験でした。職場でも同僚、生徒にやってみたいと思いました。ありがとうございました。(教)
- 面白さを出しつつ、普段実はありえそうなことを客観視できた。(保)
- 楽しかったです(保)。
- 初めてと思えないくらい皆さんを引きこませていただき、楽しめました。言語がない理解の難しさが理解できた。たった一人わからないというのは孤独だろうと思った。(企)
- わかりやすく楽しい催しで、うちの定例会でもやってみようかと思えます。(市)
- 伝わらないとどうなるのかの公演を聞いて、ふれジョブでは必要なことだと思いました(高校生)。
- 「初キャラバン隊」ということで、いろいろな想いの中…発表して下さったこと、お疲れ様でした。皆さんと参加者の公演もよかったのではないのでしょうか?(保)

★質問6 西 幸代 氏 講演「ふれジョブの心」のご感想をお聞かせください。

- 初心者にはわかりにくいかもしれませんが、すでに活動しているものにとっては再確認できてよかったです。(保)
- ひきこまれました。誰とでも生きていく意味あることを大切にしたいと思わされます(市)
- 人にものを考えさせるジョブ、という言葉が印象に残りました。重度の子供たちの社会参加を考えるうえで、とっても大切な考え方だと思います。(市)
- 地域に育ててもらい、それが相互にいい影響を与え合う、というところが印象的でした。
- ふれジョブの理念がよく分かったです。地域の中で子供が生き生きとする姿はすてきだと思いました。(学)
- もう少しお聞きしたかったです。初めてお聞きする話もあり、勉強になりました。(福)
- 命の重さや、人のいきかたの多様性を痛感しました(福)。
- できることをできる人ができる時にやる。地域の緩やかなつながりが、とても力を発揮するということを知ることができた(行)
- 隣席に座らせていただきました。息子にご配慮いただきありがとうございました。また、たくさんのお話を聞かせていただきました。知らないことが多く障害をもつ(子の)親としても恥ずかしく思いました。西先生のお話、これからも聞いていきたいです。(保)
- 「地域に居ること」を「地域のみんなか知る」ことが大切だと気づきました(行)。
- 久しぶりに西先生のお話をお聞きし、改めて地域づくりについて考えていこうという思いが燃えてきました。私が今の立場で何ができるか、考えています。ありがとうございました。(行)
- 存在支援という言葉が初めて知りました。場づくりとして私もいろいろやっています。とても参考になりました。(教)
- とまちゃんのお話、心に残りました。西先生のように自分も感受性を磨きたいと思いました(市)。
- 就労前の体験を行う会、そんな風にイメージして参加しましたが、西先生のお話で違うものだとう理解しました。「存在支援」という概念が少しわかった気がします。当たり前に入受け入れ合う、そんな地域・社会ができれば本当に素晴らしいです。(保)
- とても素晴らしいかったです(行)。
- 「存在支援/働くことでなく」地域とつながる場としてのジョブなんですね。今日初めてふれジョブの話をお聞きして学びました。真の公共、改めて考えさせられました(行)。
- そうしたことだったのか、と思うことが多々ありました。暖かい気持ちがたくさん伝わりました。ありがとうございました。(教)
- とてもよかったです！ 勇気が出ました！ ふれジョブやるぞ！(保)
- 気持ちがこもったたくさんのお話。来てよかったです。(保)
- 生まれた子は皆完ぺきというメッセージ。生きていい生命と生きて悪い生命はないというメッセージ。ふれジョブは「町づくり」「地域をつなぐ」助け合う関係を作る。(企)
- いつも通り、原点に戻った深いお話を改めて拝聴でき、この活動に取り組んでいく思いを新たにしました。(市)
- ふれジョブからは卒業してしまっただけ、心にひびいて本当にいい講演でした。(高校生)
- 先生が世話人として始められた「ふれジョブ！」その活動に参加した息子(ジョブOB)を今まで見てきて、少しなりとも「今後の人生の参考になっていかないかなあ〜？」と感じています。現在は「定例会の手伝い」として佐久ふれジョブで参加していつもお世話になっております。あと1年間…お手伝いにかかわっていかれたらいいな？と思っています。(保)

【2日目のプログラム】

★質問7 全体会Ⅰ「ふれジョブの将来と法人化」（大塚 正之 氏）のご感想をお聞かせください。

- わかりやすかったです。（保）
- 大切なことだと思います。長く受け継いでほしいです（保）
- 毎回、腑に落ちる分かりやすいお話で自分の頭の中での整理ができました。特に「民主主義」の件では目からうろこでしたが、まったくその通りだと思いました。どの組織にも共通のことです。中学校時代に校則改正をしたことを思い出しました。人が生きていく上で大切なこと、社会がどうあったらいいのか、を改めて考えたいと思いました。（市）
- わかりやすく説明していただきました。よかったです（保）。
- 共生社会の深いところの意味がよく理解できました。民主主義についても、非常にわかりやすく説明していただき、よく理解した。だからふれジョブのルールを皆で、ここで作り、変わらず活用していくために法人化する必要性もわかりました。（再確認）（企）
- 「法人化」という運営上の難しい事案を、特に理念・考え方について、わかりやすく丁寧に説明していただきました。（市）
- 法人化はいいと思うことができた。（高校生）
- 無理に、ということではなく、まずできることからやっていく!という理念、自分も参加させていただきたい。（保）

★質問8 全体会Ⅱ 「全国ふれジョブ連絡協議会の法人化説明」のご感想をお聞かせください。

- 地域へ持ち帰ってのお知らせに若干不安があります。本に書かれていることをそのまま伝え皆さんから感じたことを聞いてみます。（保）
- 何度もお話を聴いているのに今回も多く学び、気づきがありました。「7か条」がふれジョブとは限らないこと。目に見えない寄贈で成り立つこと。内田樹氏、吉本隆明氏のことばかり感じる。自己組織化など（自分はどうしたらいいのか?）。創始者である西先生の熱はやはりすごく感じます。自分も伝導できるようになって行きたいと思えます。自分の価値観をより深く掘り下げて考える機会をいただけて嬉しいです。（市）
- わかりやすかったです（保）。
- ふれジョブがこれから先の世代にまで続けていくために、法人化する事は必然的な流れで、何ら不安・不平・不満なく受け入れられるものであった。NGOが生まれたこと、NPOが生まれたことと同様である。より進化していくために今求められている。（企）
- 「ふれジョブの7か条を守ることが目的ではない。公共的なものは手作りするものだ」などの指摘が新たに印象に残りました。（市）
- 法人化する理由を知れたので良かった。（高校生）
- お話された内容について理解することができました。ありがとうございます！（保）

★質問9 今セミナーでは、分科会ではなく全体でのグループ・ワークにしました。感想をお聞かせください。

- もっと時間をとってほしかったです。（保）
- 実践が直接お聴きできてよかったです。まとめ大変だったと思います。水野さん、ありがとうございました。（保）
- 各地のサポーターさん、保護者さんとお話することができ、同じ感動を共有できました。また成熟した考えを持つ方から影響を受けることができ、整理することができました。リーダーの水野さんありがとうございました。（市）
- 昨日も参加したかったですが、また皆さんとお会いできることを楽しみにしています。杉並の皆さん（特に水野さん、松浦さん）ありがとうございました。（市）
- 進行も上手にいただけたし、いろいろお話を伺えてよかったです（保）。
- グループワークでは、具体的な不安根拠が聞けて。共有できたことが財産になりました。（企）
- こういう場があればいいと思いました。（高校生）
- 自分の悩み等(個人として想っていること)をお話させていただいてありがたかったです。（保）

★質問10 その他お気付きのことやお聞きになりたいことなどご自由にお書き下さい。

- ・準備大変だったと思います。ありがとうございました。法人化についての質問等、どこに伝えればよいですか？
(保)
- ・金扇さんのスペースも子供たちの発表もピアノの音色もとっても心地よく感動しました。杉並の皆様、本当にお疲れ様でした。(保)。
- ・一体、自分はこの会、今回で GIVE できたのか心配です。(企)
- ・主催の杉並の皆様の人柄が伝わってくる楽しく和やかなセミナーで、こちらも気持ちよく参加できました。(市)
- ・全ふれセミナーのチラシを拝見して来ましたが、任意と言っても必須だった冊子の購入や法人会員としての入会の説明で、私は場違いなところへ来てしまったという印象でした。私はサポーターとして月2度ほど(活動1、定例会1)学校へ通っていますが、月1000円以上交通費がかかっています。私には収入がありませんので、それだけで自分としては十分な出費での活動です。それ以上の直接的な金銭の出費は私にはできないと思いました。場違いなところに来てしまいました。沖谷さんのピアノをお弾きになることをうかがうことができよかったです。いろいろな体験をありがとうございます。(市)

※このアンケートの集計結果は全国ふれジョブ連絡協議会ホームページに公開させていただきます。

※アンケートは、回収ボックスに入れるかスタッフにお渡しください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

杉並区教育長 井出 隆安 氏 あいさつ

みなさんこんにちは。紹介頂きました教育長の井出でございます。

今日は全ふれセミナー2018 in すぎなみによくぞおいで下さいました。ありがとうございます。この全ふれを東京杉並でやりたい。という話をいただいた時に、私はすぐに「是非やりましょう」とはいったものの「言うが易し、行ふは難し」で、それぞれの関係の皆様方の大変な努力、ご尽力があって今日が迎えられたと改めて御礼申し上げます。

実は、この「ふれジョブをやろう」という話を河津さんから伺った時に、うーんじゃあこの話はまず済美養護学校の校長の松浦さんに話をしようと、すぐ電話を致しました。

「やりたいんだけど、どうですか？」二つ返事で「やります！」と。そしてその時に大宮中学校の校長だった橋本先生を誘って動き始めたんですね。もちろんその時に、掛け声だけではなく、実際に日常の中でこういった事業を展開していくためには、受け止めていただける地域の職場が必要です。

松浦さんは、既に先にこういった取り組みを進めていた地域の様々な事例を研究したり、実際に足を運んで、様子を伺わせて頂いたりして、まずはそこから始めようということで動き始めました。

そして今日は各地からいろいろななかかわりを持たれていた方々がお集まりいただけたという事で、本当にありがたく感謝申し上げます。

日常の風景の中に、障害を持つ人も、持たない人も、支援を必要とする人も、とりあえず必要としない人も何気なく関わる。そこに生きているって事を共感しあう。そういうシーン、ごく日常の生活の中で、特別な出会いや特別な機会や特別な場所や場面ではなく、朝起きて、顔を洗って、ご飯を食べるように。お腹が空いたら晩御飯を作って、みんなで食べておやすみなさいって言うように、日常の中のごくごく普通の風景、普通の姿として定着していく。誰もそれを不思議に思わないし、形になって、何とかの権利だとか、何とかの義務だとかでなくて、ごく自然に助けあって支えあって理解しあって生きていくことができる。私たちはそういう社会を常に求めているわけですけども、そのためには、このセミナーのように、地域の中で具体的に何をするか、単に理念や主義主張だけではなくて、実際に生活の中で取り組んでいく、ごくごく普通の取り組みが一番大事なのではないかと改めて思います。

とは言ってもそれを続けていくことがどれだけ大変か、さりげなく取り組むということがどんなに難しさを持っているかという事も尊重していきます。だからこそ皆で集まった時に、諸々のご苦労や難しいことを出し合いながら、ごく普通の形にしていくにはどうしていけばよいかということを追及していきたいと思っております。

私はたまたま教育委員会という行政職という立場におりますけれど、こういう立場から支援をするという、もちろん仕事もありますが、そういうことを越えて、一人の市民として、一人の日常生活者として、障害の有無を問わず、支援の有無を問わず、強い弱いを問わず、優しく、支えられる。そういう社会を創っていくことに地域の一人として関わっていきたいと思っております。